

## 化学会とともに 39 年 若林文高

### はじめに

本誌が皆様のお手元に届くころ、小生は 39 年間勤めた国立科学博物館（科博）を「めでたく(?)」定年退職しているはずですが。この間、化学会に大変お世話になり、科博の化学系の事業や展示は、化学会や化学会を通じて知り合った方々の支援があってこそのものでした。ちょうどこの時期に執筆依頼が参りましたので、「卒業論文」として書かせていただきます。化学会との共催事業については、以前に本誌「委員長の招待席」で書かせていただきましたので<sup>1)</sup>、それとの重複はできるだけ避けたいと思います。

### 科博に奉職、化学会や専門学会との事業開始

科博に入ったのは 1982 年 4 月。きっかけは前年 11 月に科博で開催された「化学展'81」でした。化学の様々な実物や実験が説明員の解説とともに見られる展示は、直前に福井謙一博士の日本人初のノーベル化学賞受賞が報じられたこともあり大勢の方に関心をもってご覧いただきました。大変好評であったため化学系の研究員を 2 名採用することになり、理学系では小生が、工学系では佐藤光史博士（1991 年工学院大学に転出。同大学教授・前学長）が採用されました。

化学が専門で隕石研究の第一人者である島正子主任研究官（当時。現・当館名誉研究員）のリーダーシップで 1983 年からは化学会関東支部との共催で実験教室『楽しい化学の実験室』が始まり、その後いろいろ形を変え、38 年続いています<sup>1)</sup>（2020 年度は、コロナ禍のため残念ながら中止）。当時は大学の先生方や研究者が一般の方々、特に小中学生に直接教えることは大変珍しく、試行錯誤の連続でしたが、化学会の先生方は大変熱心で、専門や研究に根ざした新しい実験教材が作られ、定番実験になったものが数多くあります<sup>2)</sup>。科博から提案した 1 つが、CD や DVD を使った分光器です。特に DVD 分光器はナトリウムの D 線（波長差 0.6 nm）を分離して観測できる優れたものです<sup>3)</sup>。

1990 年夏には、科博での 2 回目の化学展「化学展'90」が開催され、大勢の大学の先生方や企業・研究所の研究者が企画・実施にあたりました。この頃 40 代で新進気鋭の助教教授の方々が企画の中心でした。このときに知り合った先生方や化学会事務局の方々にその後、いろいろなことでお力添えをいただきました。その 1 つが化学会の委員会に参加させていただくことになったことです。『化学と教育』誌編集委員会、「夢・化学-21」委員会とそれを受け継いだ普



「化学展'90」(1990年8月)多くの先生方、事務局の方々と知り合えた。

及・交流委員会、化学遺産委員会などです。科博の事業や調査研究とも関係して、それに広がりを与えてくれました。また、先生方が関与しているほかの専門学会との共催事業が始まりました。高分子学会、セラミックス協会、触媒学会です。高分子学会との共催事業『中・高校生のためのサイエンスセミナー』は 1993 年から 2011 年まで続き、2002 年夏には『おもしろ高分子展』を開催しました。触媒学会との共催事業『キャット・ケム実験室』はほかの会場でも開催されましたが、これをきっかけに、それまで濃硫酸を触媒としていた蛍光色素の合成をゼオライトという固体酸を触媒として小学生でも安全にかつ確実にできる実験とし、しかも結果が蛍光で鮮やかに示されますので、今では固体触媒の一般向け実験として広く使われるようになりました<sup>4)</sup>。現在の「サステナビリティ」にもつながるこの実験は、触媒の専門家たちがいろいろアイデアを出してブラッシュアップしていった成果と言えるでしょう。

### おわりに

これまで大変多くの化学会の先生方や事務局の方々にお世話になりました。特に、昨年 7 月に亡くなられた恩師・田丸謙二先生には科博に入るきっかけをさせていただき、その後もいろいろな形で科博での仕事を支援していただきました。ここに深く感謝申し上げるとともにご冥福をお祈り申し上げます。

4 月からは、後任として化学系の研究員が着任することになっておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

- 1) 若林文高, 化学と工業 **2013**, 66, 922.
- 2) a) 日本化学会編, 楽しい化学の実験室, 東京化学同人, **1993**; b) 楽しい化学の実験室 II, 東京化学同人, **1995**.
- 3) 若林文高, 化学と教育 **2017**, 65, 76.
- 4) 廣木一亮, 里川重夫, 実験でわかる 触媒のひみつ, コロナ社, **2020**.



わかばやし・ふみたか  
国立科学博物館 理工学研究部長 (2021 年 3 月末まで)  
〔専門〕触媒化学, 化学教育・化学普及, 化学史。  
E-mail: f-waka@kahaku.go.jp